

新専攻医オリエンテーション開催のご報告

4月19日（土）14:30～17:30まで、大人座（札幌市中央区南1条西1丁目3 板谷ビル8階）で新専攻医オリエンテーションを開催しました。総合診療のみの先生が2人、総合診療・家庭医療の連動研修の先生が4人、家庭医療のみの先生が1人、の合計7人の新専攻医の先生方にお集まり頂きました。前半では、専門研修の全体像を見渡せるようなレクチャーを行いました。後半では、委員会のメンバーがファシリテーターとなり実際に振り返りを行ったり、ポートフォリオの書き方を実例を交えて体感して頂きました。振り返りや休憩時間では、カフェならではのリラックスした雰囲気でも、参加者同士の交流も深めることができ、現地開催の意義を感じた次第です。全道各地から、お忙しい中お集まり頂き、ありがとうございました！

若手医師学生支援委員会 委員長、釧路協立病院 内科/総合診療科 加藤聡一郎

新専攻医：藤田優貴子先生からのコメント

今回のオリエンテーションでは、難しくてもよく理解ができていない各種システムについてや、大変と噂をきいていたポートフォリオについて教えていただき、とても勉強になりました。

また、会場のフランクな雰囲気のおかげもあり、なぜ総合診療科を選んだのか、現在どのような研修をしているのか、なぜその研修先を選ぶことにしたのかなど、初対面の方とも談笑でき、楽しみながら新しい価値観を得られた貴重な経験の場でした。このような貴重な場を設けてくださり、ありがとうございました。



発行人

支部長 木佐 健悟 北海道ブロック支部事務局（市立美唄病院内）

TEL:0126-63-4171

mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

第12回北海道プライマリ・ケアフォーラム開催のお知らせ

この度、第12回北海道プライマリ・ケアフォーラムの実行委員長を務めます、帯広協会病院の阿部賢人と申します。来る2025年11月15日（土）、「かでの2・7」におきまして、「第12回北海道プライマリ・ケアフォーラム」および「日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部第10回学術集会（兼 第105回北海道医学大会プライマリ・ケア分科会）」の開催をご案内申し上げます。

今年度のテーマは、『広がる輪、つながる想い - プライマリ・ケアの語り場づくり』です。

本フォーラムでは、プライマリ・ケアにご興味をお持ちの方から、各地でご活躍されているベテランの方々まで、職種や経験年数を問わず、多様な背景を持つ医療者が一堂に会し、自由に語り合える場を提供したいと考えております。この「語り場」を通じて、日々の実践に役立つ新たな知見や気づきを得て、皆様の活動の「輪」が広がることを心から願っております。

基調講演には、一般社団法人ケアと暮らしの編集社代表理事 / 公立八鹿病院総合診療科の守本 陽一先生をお招きし、「ケアするまちをデザインするー社会的処方の実践例」というテーマでご講演いただきます。さらに、今年度も参加型のワークショップを6つのテーマをご用意しております。普段なかなか経験できない体験型学習や、皆様の業務に直結する実践的なテーマなど、多角的な視点からプライマリ・ケアを深掘りできる内容を鋭意準備中です。詳細が決まり次第、改めてご案内いたしますので、どうぞご期待ください。

私自身の話で恐縮ですが、私が学生時代に初めてプライマリ・ケアの魅力に触れたのが、このプライマリ・ケアフォーラムでした。そこで様々な職種の方々との出会い、得た学びがプライマリ・ケアを志す大きなモチベーションであり続けています。北海道の広大な地域で、それぞれの専門性を活かしながらプライマリ・ケアに取り組む方々と直接交流できる機会は、そう多くありません。本フォーラムは、職種や職歴を超え、お互いの経験を分かち合い、新たな視点を得る、まさしく「出会いと学びの場」を目指しています。

特に、プライマリ・ケアに興味があってもまだ経験がない学生や若手医療者の皆様には、このフォーラムを通じて、その「ワクワク感」を肌で感じ、将来への「何か」を持ち帰っていただけると幸いです。ベテランの先生方からも、新たな視点や刺激を得ていただけるよう、充実したプログラムを準備しております。実行委員一同、皆様にとって実り多い一日となるよう、準備に尽力しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



写真：前回のプライマリ・ケアフォーラムの基調講演の様子

リレーコラム

毎月、北海道ブロック支部でさまざまなキャリアで活躍されている方たちに気ままに日常をつづってもらっています。今回は、加藤利佳先生（手稲家庭医療クリニック、札幌刑務支所 矯正医官）のコラムです。

こんにちは。北海道ブロック支部副支部長を務めております、加藤利佳と申します。この度、リレーコラム執筆という貴重な機会を頂き、ありがとうございます。キャリアチェンジというと、大げさかもしれませんが、本年より札幌刑務支所の医務課長として赴任しましたので、そこでの様子を述べたいと思います。刑務所の中には医務室という「学校の保健室+α」のような場所があります。そこで行っているのが「矯正医療」です。矯正医療とは、刑事施設が、収容されている受刑者に保健衛生や医療を提供することです。罪を犯した人達を収容する矯正施設では、刑期を終えたあとスムーズに社会復帰できるよう、受刑者の健康を維持することが義務付けられています。全て国庫でまかっています。

私の所属している札幌刑務支所は全国で5か所ある女子刑務所のうちのひとつで、収容者は270名程度です(収容率60%程度)。業務内容としては、一般診察、入所時・確定時健康診断、職員に対する教育、決済、会議出席、講義、そして医務室内のマネジメントなどです。医務室には、医務統括、看護師長、刑務官で看護師・准看護師免許を取得している方がおります。

一般診察は家庭医の本領発揮の場です。内科的な慢性疾患や整形外科的疾患、関節リウマチなどの膠原病、悪性腫瘍が見つかる場合もあります。足白癬、湿疹など皮膚科疾患も多く、高齢化していることもあり多剤内服者への減薬のための診療も行っております。また摂食障害の方もおります。専門的な精査加療が必要と判断した場合には、近隣の市中病院へ紹介します。その場合、刑務官がついて受診することとなります。入院となった場合には、個室対応となり、刑務官が24時間交代で張り付いています。入院加療の場合、東京にある東日本成人矯正医療センターへ移送することもあります。飛行機での移送です。

受刑者にはさまざまな複雑な背景があり、医療の側面からのアプローチだけではうまくいかないことも多いのですが、私の心持ちとしては、薬に依存しない健康な心身を取り戻し、社会に復帰できるようなお手伝いができればよいと思っています。診察の際には、必ず刑務官がそばにいますので、怖いことはありません。むしろ一般の診察室よりも安全かもしれません。やりがいのある仕事です。もしご興味ある方はご連絡いただければと思います。更に情報が欲しい方はこちらをご覧ください。

<https://www.moj.go.jp/content/001323825.pdf>

<https://www.moj.go.jp/KYOUSEI/SAIYO/index.html>



北海道ブロック支部 広報委員会 編集後記

今回ニュースレターを担当した小山裕基(手稲家庭医療クリニック 専攻医3年目)です。砂川市立病院総合診療科に勤務していた時のインタビューが、道庁ホームページ上の「[北の総合診療医](#)」上で公開されています。よろしければぜひご覧ください。今は初期研修時代を過ごした手稲に戻って日々奮闘中です！
